

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	数学	年次	1
講座名 (クラスコード)	数学ⅠA クラスコード：wk2opvt3	単位数	3 + 2
授業形式・ 概要等	一斉授業形式が基本となりますが、個別問題演習や、長期休業中の補習の可能性もあります。数と式、2次関数、集合、場合の数と確率、図形と計量及びデータと分析について学習します。		
到達目標	実数の性質などの基本的な知識の習得と、方程式・不等式の解法やグラフを書くことなどの基本的技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばします。また、三角比の考え方をを用いて図形的問題を解決する姿勢などを通じて、数学的な見方や考え方の良さを実感させ、数学的問題の解決に応用する姿勢を身につけます。		
使用教材	教科書：高等学校数学Ⅰ、高等学校数学A（数研出版） 副教材：新課程教科書傍用4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版）		
学習の アドバイス 注意事項等	・単元テスト毎に、習熟度のクラス替えを行います。α（基本）クラス、β（標準）クラス、γ（応用）クラスの3展開となっています。 ・普段の授業時や課題等で観点別評価を実施します。これらの評価の結果も含めて、クラス替えを行います。 ・11月後半をめどにγクラスは固定し、より発展的な内容を実施します。 ・課題以外にも家庭学習を行ってもらうこともありますので、自主的な取り組みをしていきましょう。		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	数と式、2次関数、集合、場合の数と確率、図形と計量及びデータと分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付け、的確に問題を解決する。	授業内での演習・発言 課題への取り組み 各テスト
②思考・判断・表現	数学的活動を通して、数と式、2次関数、集合、場合の数と確率、図形と計量及びデータと分析における考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り発展的・多面的に考える。	授業内での演習・発言 課題への取り組み 各テスト
③主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、数と式、2次関数、集合、場合の数と確率、図形と計量及びデータと分析における考え方に興味を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用しようとする。	積極的な授業参加 授業内での演習・発言 課題への取り組み

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	ガイダンス・管内テスト （数学Ⅰ） 第1章 数と式	<年間を通して> 授業への参加状況・課題の状況 （③） 授業での取り組み状況（①②） 5月下旬 単元テスト（①②）
5	第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	
6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化	
7	第3節 2次方程式と2次不等式	夏期休業課題（①③） 8月下旬 単元テスト（①②）
8	第2章 集合と命題 集合 （命題と条件、命題とその逆・対偶・裏、命題と証明） （数学A）	11月中旬 単元テスト（①②） 冬期休業課題（①③） 冬休み明け 単元テスト（①②）
9	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	
10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 （第2節 空間図形）	
11	（数学Ⅰ） 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	2月下旬 単元テスト（①②） （単元テストもしくは年度末課題）
12	第5章 データの分析 データの整理、代表値、散らばりと四分位数、 分散と標準偏差、データの相関、仮説検定の考え方	

* γクラス（発展クラス）については、11月末又は1月下旬から、独立して展開し、数学A第3章「数学と人間の活動」についても時期を調整して実施

* 課題学習については、統一したものとはせず、各クラスの進度や理解度に応じた内容とする

例 α：各章の導入に関わり、生活の中での事象やこれまで触れた数学的な事象をもとに、各章に関わるような考察を行わせる

β：各章末に、応用的な内容や各自のまとめを行わせて発表の機会や集団での検証の機会を設ける

γ：各章末などに、大学入試問題などに触れさせ、解法や出題意図などについて検証する機会を設ける

令和8年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	数学	年次	2
講座名 (クラスコード)	数学Ⅱ gy7ivkqr	単位数	4
授業形式・ 概要等	習熟度別学習を通し、数学Ⅰから継続した学習を深めていきます。		
到達目標	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識・技能の習得を図り、事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を身につけます。		
使用教材	教科書：高等学校 数学Ⅱ（数研出版） 副教材：4 プロセス数学Ⅱ（数研出版）		
学習の アドバイス 注意事項等	日々の授業での取り組みを大切にするとともに、定期的な課題をしっかりと行うことが、重要です。難易度が数学Ⅰより数段上がりますので、わからない事をそのままにせず学習してください。		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、考えることができる。	課題への取り組み 各テスト
②思考・判断・表現	式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身につけている。	課題への取り組み 各テスト
③主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分積分の考えにおける考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識する。	積極的な授業参加 課題への取り組み 等

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	第1章 式と証明 1. 3次式の展開と因数分解	（標記の○囲み数字は上記の評価の観点） ＜年間を通して＞ ・積極的な授業参加…③ ・課題への取り組み…①② ・プリント学習や課題…①③ 5月中旬 単元テスト…①② 6月下旬 単元テスト…①② 夏季休業課題…①③ 9月上旬 単元テスト…①② 10月中旬 単元テスト…①② 12月中旬 単元テスト 冬季休業課題…①③ 2月下旬 単元テスト…①②
5	2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 6. 等式の証明	
6	第2章 複素数と方程式 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	
7	第3章 図形と方程式 1. 直線上の点	
8	2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式	
9	6. 円と直線 第4章 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質	
10	5. 三角関数を含む方程式、不等式 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	
11	第5章 指数関数と対数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	
12	3. 対数とその性質 4. 対数関数	
1	第6章 微分法と積分法 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	
2	6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	
3	身の回りの数学や生活に関わる数学演習	

* 課題学習については、統一したものとはせず、各クラスの進度や理解度に応じた内容とする

例 α：各章の導入に関わり、生活の中での事象やこれまで触れた数学的な事象をもとに、各章に関わるような考察を行わせる

β：各章末に、応用的な内容や各自のまとめを行わせて発表の機会や集団での検証の機会を設ける

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	数学	年次	2
講座名 (クラスコード)	数学Ⅱ・B qtg77ywa	単位数	4 + 2
授業形式・ 概要等	一斉授業および個別問題演習		
到達目標	数学Ⅱ：式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、的確に処理する能力をよりよく伸ばすとともに、それらを積極的に活用できるようになることを目指します。 数学B：ベクトル・数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようになることを目指します。		
使用教材	教科書：高等学校 数学Ⅱ・高等学校 数学B（数研出版） 副教材：4 プロセス 数学Ⅱ＋B＋C（数研出版）		
学習の アドバイス 注意事項等	数学Ⅱでは数学Ⅰで学習した内容を使うことが多いため、復習をもとに関連性を把握できるようにすること。数学Bでは、新たに学習することが多い分野であり、いずれにせよ、家庭学習等、各自での問題演習量が増えるため、授業の内容をしっかりと理解することを心掛けてください。		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けて、処理や推論の方法を身に付けている。	課題への取り組み 各テスト
②思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	課題への取り組み 各テスト
③主体的に学習に取り組む態度	各分野における考え方に関心をもつとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	課題への取り組み 授業中の演習・発言

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	数学Ⅱ第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	（標記の○囲み数字は上記の評価の観点） ＜年間を通して＞ 課題提出…①③ 授業中の演習・発言…①③ 章末テスト…②③
5	数学Ⅱ第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	章末テスト…②③
6	数学Ⅱ第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	章末テスト…②③
7	数学Ⅱ第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	夏季休業明けテスト…②③ 章末テスト…②③
8	数学Ⅱ第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	章末テスト…②③
9	第2節 対数関数	
10	数学B第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法	章末テスト…②③
11	数学Ⅱ第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	冬季休業明けテスト…②③
12	第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	
1	数学B第2章統計的な推測 第1節 確率変数と確率分布 第2節 母集団と標本	章末テスト…②③
2		
3	数学ⅡB 総合問題演習	

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	年次	3
講座名 (クラスコード)	数学 C (316dje3)	単位数	2
授業形式・ 概要等	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
到達目標	受験に必要な実践的な能力を養います。		
使用教材	教科書：高等学校 数学 C 副教材：新課程教科書傍用 4 プロセス数学 C 大学入学共通テスト対策ニューステージ数学演習 I・A+II・B・C 受験編		
評価	複数回の単元テストや普段の活動をもとに、次の 3 観点で総合的に評価します。 小テストを実施するので、その準備として予習が必須となります。		
学習の アドバイス 注意事項等	予習プリント・宿題を配布しますので期日までにきちんとやりましょう。		

評価について

観点	規 準	方 法
① 知識・技能	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	単元テスト 小テスト
②思考力・判断力・表現力	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	単元テスト 小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	授業への参加意欲・態度 予習の取り組み状況

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価の規準と観点
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 ・ ベクトル ・ ベクトルの演算	<年間を通して> ・ 授業への参加意欲・態度 (③) ・ 課題の取り組み状況 (①②③) ・ 基礎的な知識の定着 (①) ・ 発展的な問題に対応する力 (②) ・ 誘導形式問題への対応力 (①②) ・ 一定の単元が終了したのち、授業内で考査を実施します。(①②③)
5	・ ベクトルの成分 ・ ベクトルの内積	
6	第2節 ベクトルと平面図形 ・ 位置ベクトル ・ ベクトルの図形への応用 ・ 図形のベクトルによる表示 第1章単元テスト	
7	第2章 空間のベクトル ・ 空間の点 ・ 空間のベクトル	
8	・ ベクトルの成分 ・ ベクトルの内積	
9	・ ベクトルの図形への応用 ・ 座標空間における図形 第2章単元テスト	
10	第3章 複素数平面 ・ 複素数平面 ・ 複素数の極形式	
11	・ ド・モアブルの定理 ・ 複素数と図形 第3章単元テスト	
12	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 ・ 放物線 ・ 楕円	
1	・ 双曲線 ・ 2次曲線の平行移動 ・ 2次曲線と直線 ・ 2次曲線の性質 ・ 曲線の媒介変数表示 第4章単元テスト	

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	数学	年次	3 年次
講座名 (クラスコード)	数学課題研究 (5thw7zcz)	単位数	2
授業形式・ 概要等	一斉授業（2 展開）		
到達目標	公務員試験に出題される「数的推理」の問題演習を通して、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用できるようにします。		
使用教材	教科書：なし 副教材：公務員試験地方初級・国家一般職（高卒者）数学・数的推理（TAC 出版）		
学習の アドバイス 注意事項等	公務員希望者向けの授業ではありますが、就職試験にも対応する部分が多くあります。積極的に問題の捉え方、考え方、解き方を吸収してください。多くの問題に触れ、慣れる事で一般常識の習得を目指しましょう。		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	身に付けた内容について、教材やノートを活用の上、発展的な問題等に取り組み、問題を解くことができる。	各テスト 課題の取組状況
②思考・判断・表現	授業内容に対して、身に付けた内容を、演習問題や他の問題にさらに活用しようとする。	各テスト 課題の取組状況
③主体的に学習に取り組む態度	数的推理で扱う内容について、積極的に取り組み、技術を身に付けようとする姿勢で授業に参加する。	テストの小問への取り組み具合 授業時の発言等を評価

学習計画

月	学習内容（単元）		評価の規準と観点
	第 1 編の問題を 3～5 問程度解説し、次時に小テスト実施	第 2 編の問題を数問取り組み、解説	<年間を通して> 授業時の様子①②③ 復習テスト①②③ <単元テスト> ①②③ 実施時期予定 5 月下旬 8 月下旬 10 月下旬 1 月下旬
4	第 1 章 数と式	第 1 章 文章題	
5		< 5 月下旬 単元テスト >	
6	第 2 章 方程式と不等式		
7		< 8 月下旬 単元テスト >	
8	第 4 章 関数のグラフと方程式・不等式		
9		< 10 月下旬 単元テスト >	
10	第 5 章 三角比		
11	第 6 章 数列	第 3 章 場合の数	
12		< 1 月下旬 単元テスト >	
1			
	* 状況に応じて順序を変化	* 状況に応じて順序を変化	

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	年次	3
講座名 (クラスコード)	数学研究 ()	単位数	2
授業形式・ 概要等	数学Ⅱ・B・C（必要に応じて数学ⅠA）の分野の総合演習を行い、国公立大学や理系私立大学、看護学校などを志望している生徒に向けた授業を展開します。		
到達目標	受験で必要な実践的な能力を養います。		
使用教材	教科書：なし 副教材：標準演習PLAN100 ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C受験編（数研出版）		
評価	複数回の定期テスト（定期考査とは別）や普段の活動をもとに、次の3観点で総合的に評価します。ほぼ毎時間小テストを実施するので、その準備として予習が必須となります。		
学習の アドバイス 注意事項等	演習を主とする授業ですので、出来る限り自分の力で多くの問題に取り組むことが重要です。また、家庭学習で取り組みを進める事も大切です。授業では、演習問題の解説を主として行います。また、定期的に小テストも実施します。		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	数学的活動を通して、数学の体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。	単元テスト 小テスト
②思考力・判断力・表現力	数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り統合的・発展的に考えることができる。	単元テスト 小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決することができる。	授業への参加意欲・態度 予習の取り組み状況

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価の規準と観点
4	数学Ⅱ ・ 複素数と方程式	<年間を通して> ・ 授業への参加意欲・態度 (③) ・ 課題の取り組み状況 (①②③) ・ 基礎的な知識の定着 (①) ・ 発展的な問題に対応する力 (②) ・ 処理速度向上の技術 (①) ・ 誘導形式問題への対応力 (①②) ・ 定期考査は実施せず、一定の単元が終了したのち、授業内で考査を実施します。(①②③)
5	・ 図形と方程式 単元テスト	
6	・ 三角関数 単元テスト	
7	・ 指数関数・対数関数	
8	・ 微分法・積分法 単元テスト	
9	数学B ・ 数列	
10	数学C ベクトル 単元テスト	
11	大学入学共通テスト対策（センター試験過去問、予想問題演習）	
12	〃	
1	〃	